

2022年5月13日

日野自動車株式会社のディーゼル不正および学会賞（技術部門）返納について

2021年度触媒学会会長
朝倉 清高

団体会員である日野自動車株式会社殿から、2020年度に受賞した触媒学会学会賞（技術部門）「受賞タイトル：軽油によるNO_x選択還元反応を用いたディーゼル排気浄化システムの実用化」に関して、下記に記載する不正があったことから賞を返納したいとの申し出があり、触媒学会として同社の申し出を受けることにしました。

同社の説明では、開発した中型エンジン「A05C（HC-SCR）」の認証試験の1つである排出ガス性能の劣化耐久試験において、排出ガス浄化性能が劣化し規制値に適合しない可能性を認識したため、排出ガス後処理装置の第2マフラーを劣化耐久試験の途中で交換し試験を継続した事実が確認されたとのことでした。

（詳細については、同社ホームページのプレスリリースをご参照ください。

<https://www.hino.co.jp/corp/news/assets/1e2b03e47e24f9ab3141eed3c07cabfe.pdf>

本学会長、副会長、常務理事による同社へのヒアリングの中で、触媒の研究段階における不正はなかったという証言を得ました。しかしながら、①同社が賞を返納したいという希望があること、②本賞が稼働または販売の実績のある技術を対象にしていること、③不正データに基づいて平成28年排出ガス規制（2016年）適合技術とされたこと、④エンジンに関する型式指定を取り消す厳しい行政処分が下されたことを踏まえて、賞を返納していただくことにしました。

なお、会員の不正行為の調査・審理に関する内規（平成20年12月6日理事会承認、平成23年10月7日理事会改訂）にある調査委員会および処分については、①本人からの申告であったこと、②賞の自主返納および社会的な責任追及という重い処分を受けていること、③同社が再発防止の観点からさらに調査し、触媒学会に適宜報告をいただくことになったことから、触媒学会は調査委員会を設置せず、追加の処分はしないことといたしました。

同社によれば、このような不正が起こった背景として「現場における数値目標達成やスケジュール厳守へのプレッシャー等への対応が取られてこなかったことがある」ということです。

近年、アカデミアの世界でも成果主義に基づく不正が報告されています。触媒学会は平成20年12月6日に触媒学会員の倫理に関する行動指針を定め、会員にその遵守を求めました（<https://www.shokubai.org/general/rinri/index.html>）。最後にその前文を引用し、会員一人一人がこの行動指針に立ち返り、今回の事案を真摯に受け止めたいと思います。

「触媒学会は触媒化学の基礎および応用についての自由討議の場を提供し、両者の有機的結合をはかることにより、それらの発展に寄与することを目的とする。本会員は技術専門職として職務を遂行するにあたって、自らの良心と良識に従う自律ある行動が、科学技術の発展と人類の福祉にとって不可欠であることを自覚し、さらに社会からの信頼と尊敬を得るために誠実に自律的に行動することが求められる。本会は、ここに「触媒学会員の倫理に関する行動指針」を定める。」